

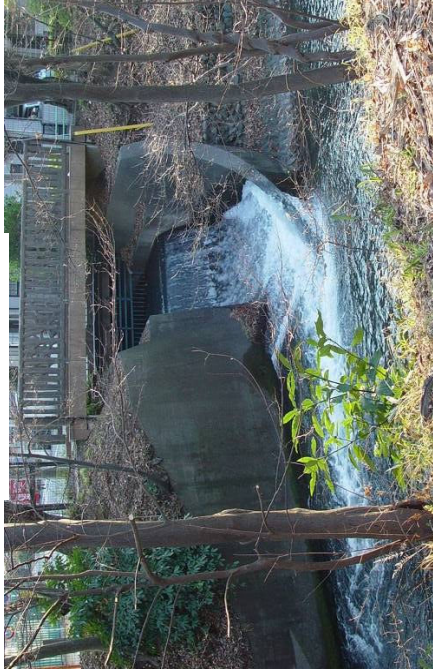
拝島原水補給口

こはけ(小欠)橋の上流約50mの右岸にある。昭和15年(1940)夏、多摩川の異常渇水により都の水道は時間給水に追い込まれ、さく井を設けるなどして急場をしのいだ。

この結果、玉川上水へ本格的な水道原水補給施設が必要となり、昭和16年(1941)の2～3月にかけて急遽建設された。

補給口より約2km南西の多摩川と秋川の合流点近く(昭島市拝島町・啓明学園付近)にある「昭和用水堰」で取水した農業用水が堰近くの「拝島原水補給ポンプ所」に流れ、ここから直径1.1mの地下導水管で原水補給口へ送水される。現在は水利権などの関係で使われるのは、非灌漑期の10月から翌年の4月末までの期間である。最大毎秒1.5トンの能力があるが、一日5万トン程度を取水している。

こはけ橋付近の原水補給口



補給口より約2キロ先の多摩川の昭和用水堰・水門



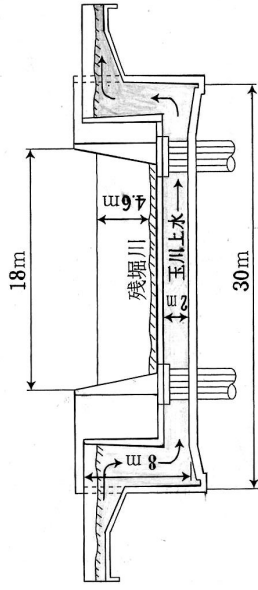
残堀川と伏せ越し

残堀川は瑞穂町の狭山池を水源とする全長14.5kmの一級河川で武蔵村山市、立川一番町、昭和記念公園を抜け富士見町3丁目まで根川に合流、多摩川に注いでいる。

本来は立川断層に沿って流れ立川と国立の境付近の青柳を経て矢川に注いでいたといわれる。昔から大雨の度に氾濫する「暴れ川」で洪水の度に土砂を堆積、土地の人から「砂の川=砂川」と呼ばれ砂川の地名の由来ともされた。

残堀川は玉川上水開削当初に流路を大幅に変えられ、天王橋付近で玉川上水に合流されて助水の役割を果たした。普段は水流は乏しい。流域の生活水の混入などで汚染が進み、明治40年ごろ現在の位置で上水の下をくぐらせ、玉川上水はその上の水道橋を流れるよう変更された。その後、残堀川のたひ重なる氾濫により、流路や川幅などの大幅な改修が行われ、昭和38年には現在のように、玉川上水が残堀川の下をくぐるよう変えられた。

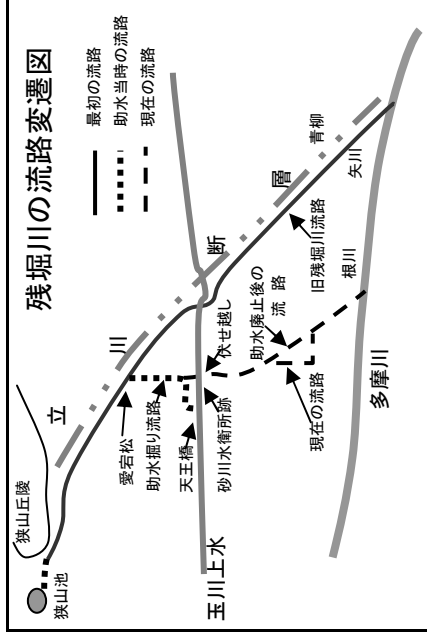
このようなくぐり抜けを「伏せ越し」といふ。水位差による自然流下により流れる(逆サイホンといわれる)。



昭和57年(1982)に「残堀川流域整備計画」が策定され、改修工事が施工された。

それ以降は殆ど水流の見られない「瀬切れ」を起こすようになった。これは川底が礫層まで掘り下げられたためで、この対策を織り込んだ新たな河川整備計画が平成19年(2007)に発表された。

残堀川の流路変遷図



玉川上水ワンポイントガイド No. 15

散歩ガイド (拝島駅から玉川上水駅)



見影橋から上流方向・左(右岸)に源五右衛門分水口跡が見える

シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

1. 玉川上水の概要
2. 玉川上水の分水
3. 玉川上水の分水・小平編
4. 玉川上水と小平周辺の新田開発
5. 玉川上水の橋
6. 玉川上水の水車
7. 玉川上水の通船・船溜り
8. 玉川上水の樹木・野草・野鳥
9. 玉川上水と小金井サクラ
10. 玉川上水あれこれ
11. 玉川上水お勧め散歩ガイド
12. 玉川上水散歩ガイド 玉川上水駅から一橋学園駅
13. 玉川上水散歩ガイド 一橋学園駅から三鷹駅

テーマ

No	テーマ
14	玉川上水散歩ガイド 羽村駅から拝島駅
15	玉川上水散歩ガイド 拝島駅から玉川上水駅
16	玉川上水散歩ガイド 三鷹駅から富士見ヶ丘駅
17	玉川上水散歩ガイド 富士見ヶ丘駅から代田橋駅
18	玉川上水散歩ガイド 代田橋駅から新宿御苑駅
19	小平市内の用水分水門・分岐口めぐり
20	小平市内の石橋供養塔めぐり
発行 2009年5月 No1～No14発行済	

発行 小平・玉川上水再々発見の会
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp
代表 庄司徳治